

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：熊本大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

- プログラム担当者氏名：朴 秀賢
住 所：〒 860 - 8556 熊本市中央区本荘 1 丁目 1 番 1 号
電話番号：096 - 373 - 5184
F A X：096 - 373 - 5186
E-mail：boku.shuken@kuh.kumamoto-u.ac.jp

- 専攻医の募集人数：(11) 人

- 応募方法：
履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。
宛 先：〒860-8556 熊本県熊本市中央区本荘 1 丁目 1 番 1 号
熊本大学病院 神経精神科 医局
T E L：096-373-5184
F A X：096-373-5186
担 当 者：朴 秀賢 (医局長)

- 採用判定方法：
科長・医局長が履歴書、面接、場合によっては筆記試験を行い、それらの結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念 (全プログラム共通項目)
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命 (全プログラム共通項目)
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

基幹施設となる熊本大学病院神経精神科は 1904 年開講の歴史ある講座で、統合失調症やアルツハイマー病の脳病理、水俣病や三池炭塵爆発のフィールドワークなどで多くの業績を残しており、伝統的に生物学的精神医学を柱としている。最近では、認知症対策医療システムとして「熊本モデル」を設立し、2018 年から第 8 代教授として、竹林 実が着任した。総合病院精神医学を基盤とした気分障害、認知症、児童思春期精神疾患を中心としてあらゆる精神科疾患を対象とした、バランスの良い診療・教育に注力している。

治療環境としては、西病棟 2 階に開放エリア 38 床（うち個室 6 床）と閉鎖エリア 12 床（うち 4 床は隔離室）からなる 50 床のベッドを有し、病棟を抜けると 228 m²からなる広々とした作業療法・運動療法スペースが広がる。約 20 名の精神科医メンターと 20 名の常勤コメディカルスタッフ（心理士 3 名、精神保健福祉士 4 名、作業療法士 3 名、言語聴覚士 1 名など）と一丸となって充実した精神科チーム医療が実践できるのが特色である。県内唯一の大学病院であり、急性期・慢性期の統合失調症などの精神病性障害、気分障害、認知症などの器質性精神障害、神経症性障害、児童・思春期の精神疾患など、措置入院から任意入院まで、難治例から軽症例まで、と多彩な症例を経験できる。修正型 ECT、クロザピンも積極的に推進しており経験できる。加えて、最新のうつ病治療である反復経頭蓋磁気刺激療法 (rTMS) と最新の補助診断法である光トポグラフィー検査 (NIRS) も経験することができる。また、総合病院精神科の重要な機能として、精神科リエゾンチーム、緩和ケアチーム（精神科医専従）も稼働し、コンサルテーション症例も多く経験できる。さらに、熊本大学病院は熊本県から認知症と発達障害の疾患医療センターの指定を受けており、豊富な紹介症例に加えて、コーディネーターとして他の疾患センターや行政などとの連携の場面も経験できる。

研修連携施設としては、熊本県内は国立病院機構熊本医療センター、国立病院機構菊池病院、熊本県立こころの医療センターと、地域の精神科医療を担っている 15 の民間精神科病院、県外では国立病院機構肥前精神医療センター、国立国際医療研究センター国府台病院、国立精神・神経医療研究センター病院、愛媛大学医学部附属病院精神科、久留米大学病院精神神経科と、合計 23 施設と連携している。気分障害強化コース、認知症強化コース、児童・思春期強化コース、統合失調症強化コース、総合病院精神医学強化コース、精神科救急強化コース、地域医療強化コース、子育て支援コースなど、特色ある研修メニューを用意しており、専攻医はそれらの中から選択して研修を行うことができ、研修の進捗状況によってはコース変更についても柔軟に対応することが可能である。約 3 年間の後期研修で、指定医症例、専門医症例をすべて経験することは十分可能であり、症例レポートの作成についても、熊本大学病院でいつでもどこにいても指導が受けられることができる体制を作っている。また、症例に関する学会発表、論文作成の積極的なサポートも推進している。当研修プログラムのもう 1 つの特色は、臨床に

つながる脳科学もベッドサイドで体験できることである。気分障害、統合失調症、認知症、児童・青年期疾患が主な研究対象であり、臨床場面で疑問に感じたことをテーマとしている。熊本大学の分子脳科学講座 (<https://www.molbrain.com/>) とコラボしながら、患者臨床データベースの解析、脳画像解析、血液・髄液バイオサンプルの解析などを通じて、多角的なアプローチで「精神疾患の謎」に迫る環境にふれることで、ベッドサイドでリサーチマインドの涵養をはかることができる。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 127 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	5265	1477
F1	1384	659
F2	6448	2544
F3	8341	1835
F4・F50	3819	566
F4・F7・F8・F9・F50	6184	468
F6	243	50
その他	1761	235

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：熊本大学病院神経精神科
- ・施設形態：国立大学法人
- ・院長名：平井俊範
- ・プログラム統括責任者氏名：竹林 実
- ・指導責任者氏名：朴 秀賢
- ・指導医人数：(6) 人
- ・精神科病床数：(50) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	907	114
F1	28	0
F2	191	16
F3	811	41
F4・F50	559	22
F4・F7・F8・F9・F50	826	33
F6	14	1
その他	20	11

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

教育理念は「リサーチマインドを持つ良医の育成」であり、総合病院精神医学を基盤とした気分障害、認知症、児童思春期精神疾患などを専門とした、幅広くバランスの良い診療・教育を行っている。熊本県内唯一の大学病院であり、急性期・慢性期の統合失調症などの精神病性障害、気分障害、認知症などの器質性精神障害、神経症性障害、児童・思春期の精神疾患など、措置入院から任意入院まで、難治例から軽症例まで、と多彩な症例を経験できる。精神科における最先端の治療である ECT、rTMS、クロザピンを積極的に推進しており十分に経験できる。また、総合病院精神科の重要な機能として、精神科リエゾンチーム、緩和ケアチームも稼働し、コンサルテーション症例も多く経験できる。さらに、熊本大学病院は熊本県から発達障害の疾患医療センターの指定をうけており、豊富な紹介症例に加えて、コーディネーターとして他の疾患センターや行政などとの連携の場面も経験できる。

14名の精神科医メンターと11名の常勤コメディカルスタッフ（心理士3名、精神保健福祉士3名、作業療法士4名、言語聴覚士1名など）と一丸となって充実した精神科チーム医療を行っているのが特色である。チーム医療の一つとして、外来の抑うつ患者を対象とした認知行動療法の集団プログラム（リカバリープログラム）にも力をいれている。

また、症例検討会、病棟グループカンファレンス、リエゾンカンファレンス。精神科臨床セミナー、英語論文抄読会（ジャーナルクラブ）、リサーチカンファレンスなど臨床から研究まで包括的な教育システムを整備しており、屋根瓦方式の指導体制も充実している。

B 研修連携施設

1 施設名：国立病院機構熊本医療センター

- ・施設形態：独立行政法人
- ・院長名：高橋 毅
- ・指導責任者氏名：橋本 聡
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(50) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	200	189
F1	23	53
F2	147	253
F3	723	162
F4・F50	333	127
F4・F7・F8・F9・F50	17	9
F6	9	16
その他	0	11

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神病床 50 床を有する総合病院であり、当院の精神科の特徴としては他科との連携を密にして精神障害と身体障害を同時に有する合併症患者の入院治療を行っております。また、当院が救急医療に積極的に取り組んでいることから、精神科関連の救急患者様についても対応しております。さらに、最近増加傾向にある、自殺企図および自傷行為に対しても、身体的対応が一段落したあとに精神的に介入することで再発の防止や問題の解決に当たっております。また、一般外来での診療につきましては、うつ病をはじめとして精神疾患の外来治療を行っております。また、院外の病医院および老健施設などから認知症をはじめとして多くの患者様のご紹介をいただいております。

2 施設名：熊本県立こころの医療センター

- ・施設形態：熊本県立病院
- ・院長名：西良知
- ・指導責任者氏名：西良知

- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(190) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	19	9
F1	95	30
F2	645	104
F3	486	47
F4・F50	119	3
F4・F7・F8・F9・F50	172	11
F6	3	3
その他	481	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

熊本県立こころの医療センターは、4つの基本理念を掲げ、県内精神科医療の中核的病院として、民間病院では対応が困難な患者の治療を行うとともに、精神科作業療法・精神科デイケアをはじめとした社会復帰活動、患者家族会運営の共同住居等を活用した自立支援活動に積極的に取り組み、全国に先駆けて短期治療型の病院を目指しています。

- 熊本県精神科医療の中核的機能を有する短期治療型の病院を目指します。
- 政策的医療を中心とした高度医療サービスを提供する病院を目指します。
- 利用者の人権に配慮したアメニティ（快適性）に富んだ病院を目指します。
- 地域とのつながりをもった開放的な明るい病院を目指します。

また、平成24年度からは思春期外来を開設し、平成29年度からは入院病床を開設しています。平成27年度からは地域連携室を開設し、退院支援と地域生活支援を行っています。依存症治療の中核施設として活動し、薬物依存症患者などの民間回復施設の支援を開設以前から行い、十数年間継続しています。

3 施設名：国立病院機構菊池病院

- ・施設形態：独立行政法人
- ・院長名：山下建昭
- ・指導責任者氏名：田中亨治
- ・指導医人数：(3) 人

・精神科病床数：(139) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	427	188
F1	4	1
F2	228	53
F3	328	32
F4・F50	58	0
F4・F7・F8・F9・F50	267	6
F6	1	1
その他	163	4

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

外来では、認知症を診察するもの忘れ外来があり、急性期・慢性期の統合失調症、気分障害、不安障害にも対応している。入院病床は、精神一般が 48 床、認知症が 94 床、重症心身障害児(者)が 80 床であり、県内で唯一の司法精神医学の研修ができる医療観察法病棟（25 床）も有している。また、熊本医療センター、熊本再春荘病院、熊本セントラル病院、地域の医療機関と連携して地域医療、診療支援にも貢献している。当施設では、臨床心理士 5 名、精神保健福祉士 7 名、作業療法士 8 名などとコメディカルスタッフが豊富で、医療観察法病棟を中心としてチーム医療に取り組んでいる。

4 施設名：国立病院機構肥前精神医療センター

・施設形態：独立行政法人

・院長名：杠 岳文

・指導責任者氏名：武藤岳夫

・指導医人数：(21) 人

・精神科病床数：(404) 床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	233	123
F1	581	319
F2	697	477
F3	526	176
F4・F50	604	41
F4・F7・F8・F9・F50	1407	101
F6	109	20
その他	678	190

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

脊振山系が目の前に広がる自然に恵まれた単科精神科病院である。佐賀県唯一の精神科救急病棟を有していることもあり、指定医、専門医の症例は豊富にあり、毎年20人以上の専攻医が研鑽を積んでいる。精神科救急病棟を教育研修の中心の場とし、精神科リハビリテーション、地域医療（デイケア、訪問診療）を学ぶことができる。また、こどもの心の診療拠点病院、依存症治療拠点機関、認知症疾患医療センター、医療観察法指定入院・通院医療機関に指定されており、他施設では経験が難しい臨床経験（児童精神医学、嗜癖、司法精神医学、精神鑑定の助手、救急トリアージ、DPAT研修、CVPP研修）も積むことができる。クロザピン、修正型電気けいれん療法の経験もできる。

5 施設名：国立国際医療研究センター国府台病院

- ・施設形態：国立研究開発法人
- ・院長名：青柳信嘉
- ・指導責任者氏名：早川達郎
- ・指導医人数：（ 10 ）人
- ・精神科病床数：（ 142 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	119	23
F1	61	14
F2	256	187
F3	257	55
F4	309	16
F5	76	2
F6	19	1
F7	86	3
F8	265	7
F9	189	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

国立国際医療研究センター国府台病院は戦後まもなくから児童精神科専門病棟を運営してきた歴史があり、専門病棟を持つ唯一の国立高度医療研究センターです。その治療は同年代の仲間関係を利用しながら、子どもたちの主体性を伸ばし、一人でも多くの子どもが社会に参加していけることを目指した臨床と研究を実践しています。また、子どもに関わる様々な職種のスタッフが児童思春期精神医学の考え方や各治療技法を理解し習熟できるよう、医療、教育、福祉に関係する専門家の研修に寄与することも活動目標の一つとしています。

平成 27 年度は精神科医師と小児科医師を含めた常勤医 5 名（精神科指導医 4 名、小児科専門医 2 名）、レジデント 9 名が治療に携わっています。外来診療は、約 70 名/日の外来患者の診療に当たっており、年間 600 名程度の初診患者を診療しています。また、当院の特徴として精神科開放病棟である児童精神科病棟（45 床）を持ちます。長期の不登校児に対して社会参加の経験を増やすために、キャンプなどの活動的集団療法があります。また、小児の摂食障害を治療できる施設は少なく、身体的危機による緊急入院に対応するために、心療内科病棟での小児の摂食障害児の治療も行っています。

実際に行われている治療は、力動的な精神療法、薬物療法、認知行動療法、集団療法、ペアレントトレーニング、集団親ガイダンスであり、各種カンファレンスでの指導や個別のスーパーバイズを受けることができます。

幾つかの臨床研究も実践されております。精神科専門医取得後に児童精神科の専門的な研修をする場合には、興味のある分野での臨床研究の立案から論文作成まで可能で、児童青年精神医学会の認定医を取得に向けた症例を経験することができます。

なお、当院の児童精神科での研修の場合には、専門病棟で子どものケースのみを担当する特徴があり、児童精神科研修に集中できる特徴があります。豊富

な症例と、経験豊かな常勤医たちの指導もあり、多くのレジデントの育成をしてきた実績もあります。そして、同世代の専攻医たちと一緒に働くことも魅力の一つです。

6 施設名：国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院

- ・施設形態：国立高度専門医療研究センター（ナショナルセンター）
- ・院長名：阿部康二
- ・指導責任者氏名：鬼頭伸輔
- ・指導医人数：（ 19 ）人
- ・精神科病床数：（ 91 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	792	113
F1	274	48
F2	1750	445
F3	1820	370
F4・F50	1413	132
F4・F7・F8・F9	207	32
F6	36	12
その他	417	4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

一般精神 123 床（閉鎖病棟 82 床、開放病棟 41 床）及び心神喪失者等医療観察法 68 床の計 191 床を有する。入院患者の多くは救急・急性期治療および検査入院の患者であり、身体合併症にも対応している。研修過程ですべての領域の精神疾患について経験することが可能であるが、特にうつ病、統合失調症、認知症、依存症、てんかん、睡眠障害は専門外来があり、専門医による指導を受けながら貴重な症例を経験できる。クロザピンを含む薬物療法、修正型電気けいれん療法、個人精神療法（特に認知行動療法）、集団精神療法などの治療が柔軟に組み合わせられ、多職種チーム医療に重点をおいている。院内には脳波（長時間ビデオモニタリング、睡眠ポリソムノグラフィーを含む）・CT・MRI・核医学検査（SPECT, PET）・光トポグラフィー・脳磁図など高度医療機器が整備され、これらを用いて診断を行うとともに、読影について学習する。臨床研究に関するセミナーを受講し、上級医の指導のもと研究協力者として参加することも可能である。

7 施設名：愛媛大学附属病院神経精神科

- ・施設形態：国立大学法人
- ・院長名：三浦裕正
- ・指導責任者氏名：伊賀淳一
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 40 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	238	30
F1	16	1
F2	145	39
F3	205	28
F4・F50	169	15
F4・F7・F8・F9・F50	362	26
F6	10	1
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は626床を有する大規模な総合病院であり、精神科は40床の病棟を有している。高度専門医療機関として、難治性の症例を中心に認知症（F0）、統合失調症（F2）、気分障害（F3）などの治療に当たっている。思春期症例、摂食障害、身体合併症、リエゾン・コンサルテーションなど精神科臨床を幅広く経験することができる。日本精神神経学会はもちろんのこと、日本老年精神医学会や日本臨床精神神経薬理学会の専門医、指導医が多数所属しており、専門教育や研究にも力を入れている。

8 施設名：久留米大学附属病院神経精神科

- ・施設形態：私立大学法人
- ・院長名：志波直人
- ・指導責任者氏名：柳本寛子
- ・指導医人数：（ 14 ）人
- ・精神科病床数：（ 53 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	36	26
F1	9	0
F2	36	30
F3	127	62
F4	246	24
F5	164	8
F6	0	1
F7	9	2
F8	9	3
F9	0	2
G40	100	19

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

久留米大学病院は、連携施設として主に症状性を含む器質性精神障害、コンサルテーション・リエゾンの症例について研修する役割を担っている。1000床以上の病床数を持つ久留米大学病院では、身体疾患患者が精神科疾患を合併する例も多く、逆に精神科患者における身体合併症治療を行う機会も非常に多い。精神科外来では、平日毎日のコンサルテーション業務に加え、毎週金曜日の午後にはリエゾン回診を行っている。リエゾン回診は、精神科医チームが他科病棟を訪問し、医師や看護スタッフに助言を行う『御用聞き』方式であり、昭和58年に始めたシステムである。専攻医はこのリエゾン回診を通じて、コンサルテーション・リエゾンで依頼の多いせん妄・うつ状態といった疾患の診断および治療に携わることができる。また、精神科病棟では、症状性精神病、てんかん、器質性精神障害の患者も多く入院しており、特にてんかんについては専門的な診療チームのもと、数多くの症例を経験できるという大きな特徴を持っている。

9 施設名：弓削病院

- ・施設形態：特定医療法人
- ・院長名：相澤明憲
- ・指導責任者氏名：相澤明憲
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 160 ）床

・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	160	90
F1	12	8
F2	670	247
F3	971	237
F4・F50	435	53
F4・F7・F8・F9・F50	498	76
F6	14	6
その他	23	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、病床数は160で、精神科病院としては小規模であるが、「要請があれば断らない」ということを原則とし、あらゆる精神疾患に対応するべく努力している。精神科救急病棟と精神科急性期治療病棟を持ち、県内の精神科クリニックの他、総合病院など一般科からの紹介症例も多数受け容れ、入退院患者数、外来患者数とも県内で多い方から1、2番目となっている。したがって当院での精神科研修には以下のような特徴がある。

- ① 統合失調症から気分障害、認知症のBPSDから小児の発達障害、ストレスケア・リワーク目的の任意入院から措置入院まで、診断、病像、年齢の異なるさまざまな症例を多数経験することができる。
- ② 患者の平均在院日数は約80日と比較的短く、多くの症例で入院から退院までを経験することができる。
- ③ 長期化したあるいは長期化しそうな症例に対する退院支援にも力を傾注しており、チーム医療を活かした、地域連携・地域移行活動を学ぶことができる。
- ④ 新薬の臨床試験や難治性統合失調症患者に対するクロザピン内服治療に取り組んでおり、関心があればそれらについての研修が可能である。

当院では、指定医取得や専門医資格取得のレポート症例を得ることは容易であり、そのみならず精神科臨床医として成長するのに必要なさまざまな研修ができるものと考えている。

10 施設名：くまもと心療病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：荒木邦生
- ・指導責任者氏名：荒木邦生

- ・ 指導医人数：（ 6 ） 人
- ・ 精神科病床数：（ 286 ） 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	514	93
F1	87	16
F2	713	107
F3	623	50
F4・F50	241	13
F4・F7・F8・F9・F50	141	8
F6	16	3
その他	135	14

- ・ 施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

ベッド数 322 床を持ち、それぞれの特徴を持つ 6 つの病棟にて入院治療を行っている。日本精神神経学会の専門医・指導医が多数在籍しており、急性期・慢性期の精神病性疾患、気分障害、神経症性障害等の豊富な症例を経験できる。

さらに、老年精神医学、精神科救急、てんかんにおいても豊富な経験を有する医師のもと、多くの症例を経験できる。また、熊本県より認知症疾患医療センターの指定を受けており、認知症専門外来を開設、各種認知症の診療を行っているため、老年期の精神障害については外来・入院ともに豊富な症例を経験できる。

11 施設名：くまもと青明病院

- ・ 施設形態：医療法人
- ・ 院長名：上田啓司
- ・ 指導責任者氏名：上田啓司
- ・ 指導医人数：（ 2 ） 人
- ・ 精神科病床数：（ 176 ） 床
- ・ 疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	373	117
F1	17	2
F2	934	200
F3	836	125
F4・F50	62	38
F4・F7・F8・F9・F50	235	57
F6	6	3
その他	3	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

「患者様の最善のパートナー」を理念に急性期医療から慢性期医療、高齢者、ストレス関連疾患医療まで幅広い診療を展開しています。同一法人に江南病院（一般病院）や熊本内科病院、老人保健施設フォレスト熊本があるため身体合併症や介護領域までを含んだ包括的な医療福祉サービスを提供できるのが特徴です。また、関連施設にデイケアセンターや認知症デイサービスセンターがある他、熊本市から委託を受けている障がい者相談支援センターや認知症疾患医療センターを運営しているのが特徴です。

取り扱う疾患としては、精神医学分野全般に対応していますが、外来で特に多いのが統合失調症、気分障害です。次いで、認知症等や神経症性障害等となっています。また、新患においては認知症等が圧倒的に多く（全体の50%超）、次いで気分障害、神経症性障害等となっています。入院においては統合失調症、気分障害、認知症等が中心となっています。これは当院が統合失調症を中心とした急・慢性期病棟やうつ病棟、認知症治療病棟から構成されていることによるものが大きいと言えます。

12 施設名：阿蘇やまなみ病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：高森薫生
- ・指導責任者氏名：高森薫生
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 270 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	483	90
F1	18	3
F2	301	110
F3	244	12
F4・F50	2	0
F4・F7・F8・F9・F50	135	0
F6	10	1
その他	1	1

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

県下でも高齢化率の高い阿蘇地域での唯一の精神科病院であり、高齢者医療の中心となっている。認知症疾患医療センターでもあり、認知症をはじめとする高齢者の精神疾患について経験を積むことができる。

高齢者の身体合併など、地域のかかりつけ医や一般科病院と連携が必要な症例も多い。また併設の介護老人保健施設、介護老人福祉施設、地域活動支援センターもあり、病院と協力しながら治療を行っている。地域の施設や行政等と連携しながら対応している症例も多く、地域医療（医療福祉資源の希薄な地域）の研修の場としては貴重な経験を得ることができる。

13 施設名：益城病院

- ・施設形態：社会医療法人
- ・院長名：松永哲夫
- ・指導責任者氏名：松永哲夫
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 210 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	899	173
F1	408	119
F2	585	189
F3	641	83
F4・F50	286	24
F4・F7・F8・F9・F50	351	22
F6	4	0
その他	42	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

- ① 平成 28 年 4 月の熊本地震で、外来・入院機能ともに一時的に停止したが、現在は外来 8 割、入院 9 割方回復している。研修に関しては特に支障なく、かえって以前より研修内容が増えて良かったとも思われる。
- ② 外来患者・入院患者の数が多。外来患者総数はデイケア参加者数の減少のために、やや減少傾向にあるが、新規の外来患者数と新規（初回）の入院患者数は相変わらず多い。
- ③ 新規外来患者の内訳としては、全体に万遍ない広がりを示している。多い順でいえば、認知症(F0)、気分障害(F3)、アルコール依存症(F1)で、平均的な病院と比べると F0 と F1 が多い。
- ④ 入院患者の内訳としては、やはり統合失調症(F2)と認知症(F0)が多い。
- ⑤ 認知症の診療に関しては、外来患者・入院患者ともに多く、熊本県認知症患者センターとして県から指定を受けており、スタッフは研修を重ねながら、診療技術や診療環境の整備に努めている。
- ⑥ 統合失調症に関しては、入院患者数としては最も多い。
- ⑦ 以前から地域移行支援に取り組んでおり、デイケア、デイナイトケア、就労支援事業（パン工房、レストラン、園芸作業、清掃作業、洗濯作業、内職など）、共同住居、宿泊型自立訓練施設など多くの治療環境や施設を有している。
- ⑧ アルコール依存症に関しては、県内・県外から受診者が多く、毎月 200 名超のアルコール依存症が通院しているというのは、本県では他に類を見ないと思われる。
- ⑨ 社会医療法人として、僻地の精神科医療に貢献している。
- ⑩ 医療観察法の鑑定入院施設である。また同法以外の司法精神鑑定にも貢献している。

14 施設名：希望ヶ丘病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：松本武士
- ・指導責任者氏名：弟子丸元紀
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(162) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	103	75
F1	6	6
F2	187	132
F3	312	32
F4・F50	1077	75
F4・F7・F8・F9・F50	270	6
F6	2	4

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

- ＊専門外来

児童思春期外来、もの忘れ外来、インターネット依存外来 など

- ＊外来施設等

精神科デイケア Will、精神科訪問看護、認知症デイケアひまわり、
子どもと親の支援センター hope hill

- ＊対象疾患

- ＜全般＞

うつ病、統合失調症、神経症・心身症、不眠症、パニック障害、PTSD、アルコール依存症、けいれん性疾患、精神遅滞、器質性精神障害、認知症などの心身の健康障害

- ＜児童・思春期＞

児童思春期精神疾患、発達障害 (自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動障害、学習障害など)、精神遅滞、不登校、ひきこもり、インターネット依存 など

15 施設名：人吉こころのホスピタル

- ・施設形態：医療法人

- ・院長名：村上良慈
- ・指導責任者氏名：村上良慈
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 198 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	283	45
F1	84	29
F2	531	188
F3	582	78
F4・F50	133	9
F4・F7・F8・F9・F50	172	11
F6	10	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では一般精神科医療全般を行います。地域生活支援のため隣接する地域生活支援センター翠、地域の就労支援事業所との連携で精神科リハビリテーションに力を入れることや、地域に多いアルコール依存症に対しての専門プログラムを提供すること、拠点型認知症疾患医療センターでの認知症対応、うつ病休職者への復職プログラムなどが特徴かと思えます。また、児童・思春期対応も細々ながら行います。また、精神科急性期治療病棟、精神科療養病棟、慢性期精神疾患の多い病棟、認知症など高齢者の多い病棟があり、さらに外来・地域連携部門（訪問診療、訪問看護、デイケア・ショートケアを含む）での地域生活支援まで一貫した精神科医療を行っており、各部門を経験することでバランスの良い一般精神科の研修になると思えます。また、看護師・精神保健福祉士・臨床心理士・作業療法士・薬剤師・栄養士・検査技師など各専門職種とのチーム医療も経験できます。地域の精神科病院の役割として各医療機関のみならず保健・福祉・行政・教育・労働産業等との連携活動への参加の機会も多くあります。

16 施設名：酒井病院

- ・施設形態：医療法人社団
- ・院長名：酒井義雄

- ・指導責任者氏名：酒井 透
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 150 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	197	24
F1	71	13
F2	430	57
F3	531	51
F4・F50	116	1
F4・F7・F8・F9・F50	257	9
F6	3	0
その他	157	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、地域の急性期精神科医療を主として担っており、統合失調症圏、気分障害、症状性を含む器質性精神障害、児童思春期および成人の発達障害等の外来ならびに入院治療を経験することが可能である。また、小規模ではあるが、アルコール依存症における院内断酒会や入院回復プログラムも行っており、精神作用物質による精神及び行動の障害による症例も経験することができる。

17 施設名：八代更生病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：宮本憲司朗
- ・指導責任者氏名：阿部恭久
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 260 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	436	150
F1	68	27
F2	334	135
F3	574	59
F4・F50	281	29
F4・F7・F8・F9・F50	494	29
F6	2	0
その他	35	12

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院では思春期から高齢者までの幅広い年代について学習できることが大きな特徴です。精神科急性期治療病棟においては精神科救急及び mECT、認知症治療病棟では認知症のマネジメント、精神科一般病棟では治療抵抗性統合失調症へのクロザピン投与、精神科療養病棟では患者の退院支援を行っており、病棟毎の特色を生かした治療について学習も可能です。

また、県下では唯一臨床精神神経薬理学会専門医が3名在籍しており、精神科薬物治療についての系統だった学習が可能です。

精神神経学会ばかりではなく、老年精神医学会専門医研修施設でもあります。

熊本大学神経精神科との共同研究も行っており、各学会発表、論文投稿もご指導いたします。

18 施設名：向陽台病院

・施設形態：医療法人

・院長名：比江島誠人

・指導責任者氏名：山脇かおり

・指導医人数：（ 5 ）人

・精神科病床数：（ 198 ）床

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	37	21
F1	47	27
F2	364	115
F3	429	120
F4・F50	293	27
F4・F7・F8・F9・F50	611	112
F6	11	4
その他	35	0

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

精神科救急病棟 56 床、児童思春期病棟 31 床、精神一般病棟 111 床を運営する病院。

救急病棟では統合失調症・気分障害・依存症・措置等の豊富な症例が経験できる。

児童思春期病棟では小学生、中学生を対象とし、発達障害・気分障害・不登校・インターネット依存や被虐待などの症例が多い。院内学級（小学校・中学校）も平成 30 年 4 月から開設している。学校はもとより児童相談所などとの連携も活発で事例検討会なども積極的に行っている。

現在、44 名の常勤コメディカルスタッフ（心理士 12 名、精神保健福祉士 14 名、作業療法士 18 名など）が在籍し、チーム医療に取り組んでいる。

19 施設名：ニキハーティーホスピタル

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：仁木啓介
- ・プログラム統括責任者：仁木啓介
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 200 ）床
- ・疾患別入院数・外来数

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	20	24
F1	1	1
F2	32	183
F3	137	64
F4・F50	52	21
F4・F7・F8・F9・F50	58	22
F6	2	3
その他	5	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

- ① 心的外傷後ストレス障害（PTSD）の専門治療に特に注力している。これまでに熊本県警やくまもと被害者支援センター、熊本県下の児童相談所等関係機関と連携して、被害者・被虐待経験者に対して、エビデンスに基づく治療法として、EMDR（Eye Movement Desensitization and Reprocessing：眼球運動によ

る脱感作と再処理法)を中心とした療法を実践している。2016年4月に発生した熊本地震以後、行政や関係機関とともに、災害時のこころのケアに関する普及啓発を図るとともに、災害トラウマの症状の治療ニーズに対して、2017年4月より「トラウマ外来」を開設し、熊本県こころのケアセンター等と積極的に連携し、これまで100名以上の治療を行っている。

- ② 外来初診の80%以上をF3・F4が占める。官公庁・行政機関・企業等・健診センターと提携しメンタルヘルスに関するコンサルティング・カウンセリング・ストレスチェック等を実施している。また、うつ病を中心とした復職支援プログラム(リワーク)も実施しており、産業精神保健の一次予防・二次予防・三次予防に積極的に取り組んでいる。
- ③ 地域包括ケアシステムの一翼を担うべく、病院事業を中心に訪問看護ステーション・相談支援事業所を併設し、医療・介護・福祉事業を展開し、地域の関係機関と積極的な連携を図っている。

20 施設名：医療法人 健生会 明生病院

- ・ 院長名：小田浩一
- ・ 指導責任者氏名：鈴木展子
- ・ 指導医人数：(3) 人
- ・ 精神科病床数：(234) 床
- ・ 疾患別入院数・外来(年間)

疾患	外来	入院患者数
F0	45	23
F1	83	56
F2	548	153
F3	303	55
F4・F50	107	10
F4・F7・F8・F9・F50	147	17
F6	3	2
その他	47	1

- ・ 施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は地域の全ての人が明るく生きていくための精神医療、保健、福祉、を提供することを理念とし、偏りなく幅広い疾患に対応することで、地域社会のニーズに応じた医療の提供に努めている。当院の特徴として、医療観察法における指定通院医療機関であり司法精神医学の一端を経験できること、措置入院を含めた多様な入院形態を経

験できること、アルコール依存症候群におけるARP(アルコール・リハビリテーションプログラム)を取り入れ、断酒会や家族会を含めた総合的な精神作用物質に対する治療が経験できること、治療抵抗性統合失調治療(クロザピン治療)の経験ができること、集団精神療法(生活技能訓練、退院準備プログラム、心理教育など)、訪問看護、作業療法、デイケア、生活療法、家族会など様々な院内の資源や社会資源を活用する方法を学び、地域医療を経験できること等が挙げられる。

その他、主治医制の診療体制をとっており、急性期から社会生活への復帰に向けたサポートまで一貫して関わることができる。また、電子カルテの学習も可能である。

21 施設名：くまもと悠心病院

- ・施設形態：医療法人
- ・院長名：宮内大介
- ・指導責任者氏名：宮内大介
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(120) 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	102	35
F1	3	5
F2	21	32
F3	25	15
F4	9	1
F5・F7・F8・F9	7	0
G4	8	0
その他	178	0

- ・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

行政、地域包括支援センター、精神科診療所、一般科病院、介護施設等との連携を推進し、地域での精神科医療、保健福祉の向上に積極的にかかわっている。疾患群としては、認知症関連疾患、統合失調症、気分障害の割合が高い。精神科救急対応、急性期の入院治療、その後の社会復帰への支援、さらにはデイケア、訪問看護などによるリハビリテーション、在宅支援までの一連の治療を経験することができる。チームアプローチを推進するために、多数のコメディカルスタッフとカンファレンス等を定期的実施している。外来部門では介護施設や引きこもりの患者宅への訪問診療を実施し、通常の外来とは違った在宅支援を経

験できる

22 施設名：平成病院

- ・施設形態：医療法人社団
- ・院長名：本田荘介
- ・指導責任者氏名：本田荘介
- ・指導医人数：（ 1 ）人 （令和2年度、3年度に各1名増予定）
- ・精神科病床数：（ 141 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	958	59
F1	10	6
F2	393	39
F3	468	14
F4・F50	240	5
F4・F7・F8・F9・F50	366	10
F6	1	1
その他	58	1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は内科33床併設の精神科病院であり、また地域拠点型認知症疾患センターの活動も行われ地域における精神科医療の中核を担っている。県下の精神科病院の中でも特に外来患者数も多く、また地域の総合病院からのコンサルト依頼など様々な精神疾患の治療場面を経験することが可能である。それに伴い入院症例も急性期、回復期、慢性期また身体合併症例と広い領域をカバーしている。医療保護入院、措置入院などの非自発入院も多く、隔離、身体拘束が必要となる場合も多い。

当院では、看護師、精神保健福祉士、心理士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、ケアマネージャー、介護福祉士、栄養士など多職種が連携し治療にあたっておりチーム医療を学ぶことが出来る。また退院支援、地域生活支援にも積極的に取り組んでいる。市医師会の活動にも積極的に参加しており、精神科以外の医療機関との連携も大切にしている。

地域医療、精神科医療についての幅広い知識、技術を身につけてもらい、さらに精神科専門医としての態度、人格を涵養していきたい。

併設施設等：応急指定、精神療養病棟、認知症疾患治療病棟、精神科作業療法、精神科デイケア、精神科デイトケア、訪問看護ステーション、精神科グループホーム、共同住居、地域生活支援センター、精神科救急輪番、地域密着型特別養護老人ホーム、地域拠点型認知症疾患センター

医師臨床研修制度 協力型臨床研修病院

(基幹病院は、熊本大学病院、熊本労災病院、熊本総合病院)

(平成31年度 5名が研修)

日本精神神経学会 研修施設(旧制度)(施設番号：643029)

(令和2年度現在、1名が研修中)

23 施設名：荒尾こころの郷病院

- ・施設形態：単科精神科病院
- ・院長名：王丸道夫
- ・指導責任者氏名：垣内理恵
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(272) 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患	外来患者数(年間)	入院患者数(年間)
F0	218	151
F1	9	10
F2	193	125
F3	250	30
F4・F50	179	5
F4・F7・F8・F9・F50	276	1
F6	2	0
その他	321	16

- ・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は、精神科一般114床、精神療養56床、認知症治療病棟102床を有する合計272床の精神科単科病院である。また、同一敷地内に療養医療を提供する荒尾中央病院(療養病床298床)、介護老人保健施設慈眼苑(90床)、在宅総合センター(訪問看護、訪問介護等)を有しているため、身体合併症における連携や介護福祉部門との連携を行う総合的な医療と福祉の提供を行っている。その他、同一法人の関連施設として当院以外にも精神科単科病院倉永病院(大牟

田市：精神科病床295床）やグループホームを有している。

疾患では、老年期の認知症疾患をはじめ、うつ病や睡眠障害、不登校、発達障害、児童思春期などの症例も多い。

認知症に関しては、平成23年に熊本県の地域拠点型認知症疾患医療センターに認定されており、平成25年には国のモデル事業として認知症初期集中支援チームを設置するなど、認知症の原因疾患を特定する鑑別診断及び診断に基づいた治療や初期対応を行っている。また、全国8地域で行われている大規模認知症コホート研究にも参加、協力している。

その他行政機関、地域医療介護福祉施設、医師会との連携を強化するため、当院主催の研修会の開催や、地域の研修会への講師派遣等も積極的に行っている。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。

1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理 各年次の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：原則、基幹施設で、指導医と一緒に典型的な統合失調症、気分障害、認知症などの器質性精神障害、児童思春期疾患の患者等を受け持ち、面接方法、診断と治療計画、精神療法および薬物療法の基本を学ぶ。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。基本的な神経学的所見の取り方、髄液検査、脳画像および脳波検査所見の読み方を習得する。ECTおよびクロザピンの適応や方法について学ぶ。学会主催のECT講習会に参加する。また、リエゾン精神医学・緩和ケア（精神腫瘍学）を経験する。医の倫理や医療安全の講習会に参加する。症例検討会、精神科セミナー、ジャーナルクラブ、リサーチカンファレンスに参加する。興味深い症例については、症例検討会を経て学会で発表・討論し、症例報告の投稿の準備をする。

2年目：連携施設で指導医の指導を受けながら、自立して、面接方法を深め、診断と治療計画の能力、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応方法を学ぶ。また、リエゾン精神医学・緩和ケア（精神腫瘍学）の経験を積む。さらに、神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。全国学会で発表・討論する。初年度の症例報告の論文を投稿する。

3年目：連携施設で指導医のサポートのもと、自立して診療ができるようになる。連携施設はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向に即した専門性を考慮して選択する。精神療法と薬物療法の修練を行いながら、心理社会的療法、精神科リハビリテーション、地域精神医療等を学ぶ。発達障害などの児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。精神鑑定の補助や熊本地震の被災者の心のケアを通じて、司法精神医学、災害精神医学についても学ぶ。基本的な臨床研究の進め方を習得する。全国学会・研究会などで積極的に症例発表し、自発的に症例報告の論文作成が行えるようになる。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。同じく基幹施設におけるコンサルテーション・リエゾン診療を通して身体科との連携を持つことにより、医師としての責任や社会性、倫理観などについても学ぶ機会を得ることができる。

① 学問的姿勢

専攻医は常に自己研鑽し、学習することが求められる。すべての研修期間を通じて担当する症例に関して、過去の類似症例について文献検索するなどの姿勢を心がける。特に興味深い症例については、専門誌などへの投稿を行う。

② コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 治療関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、ECTなどの身体療法、リエゾン精神医学、精神腫瘍学といった精神科医特有の基本的診療能力の獲得を目指す。

③ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設において症例を学会で発表し、論文にまとめる方法を取得する。臨床研究にも従事し、方法について学ぶ。

④ 自己学習

生涯にわたって学習する習慣を身に付ける。症例検討会、リサーチカンファレンスなどを通して病態と診断過程について理解し、治療ガイドラインなどを参考にして、治療計画作成の理論を学ぶ。学会等で作成している研修ガイド、e-learning、ビデオなどを活用して、より広く深い知識と技能の習得に努める。

4) ローテーションモデル

1年目は原則、基幹施設をローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2-3年目には総合病院精神科(B①)、公的な単科精神科病院(B②~⑤)、特色ある私的単科精神科病院(B⑥~⑭)を各1年ずつローテートし、精神科救急、身体合併症治療、難治・急性期症例、児童・思春期症例、地域連携症例を幅広く経験し、

精神療法、薬物療法、身体療法を主体とする治療手技、クロザピンの使用方法、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。2－3年目のローテート順については、本人の希望に応じて多彩な研修コースが可能である。可能な限り専門性の高い医療を実践している連携施設の中から本人の志向に合わせた研修先を選択できる各種強化コースを用意している（別紙1）。地域研修プログラムとして、1年間：基幹病院をローテート後、1年6か月間：国立国際医療研究センター国府台病院（千葉県）をローテートして、残りの半年間：本人の志向に合わせた研修先が選択できる研修プログラムが選択可能である。また、研修2年目で国立精神・神経医療研究センター病院のローテートするコースでは、半年の一般精神科研修、その後半年間てんかんを重点的に学ぶことも可能である。その他、分子精神医学、認知症、児童思春期精神医学の診療研究に優れる愛媛大学、睡眠やてんかんの診療や研究に優れる久留米大学と連携したプログラムも用意している。

連携施設等において研修指導体制が十分でないとは判断された場合は、必要に応じ、基幹施設から研修指導医を定期的に派遣したり、インターネットを利用した定期的な会議や指導を実施するなど、然るべき対策を講じることとする。

5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照。

4. プログラム管理体制について

プログラム管理委員会は下記から構成され、専攻医および研修プログラム全般の管理と研修プログラムの継続的改良を行う。

・プログラム管理委員会

- 委員長 医師：竹林 実
- 医師：朴 秀賢
- 医師：石川智久
- 医師：渡邊健次郎
- 医師：田中享治
- 医師：濱元純一
- 医師：山下建昭
- 医師：橋本 聡
- 医師：相澤明憲
- 医師：宮本憲司朗
- 医師：阿部恭久
- 医師：松永哲夫
- 医師：荒木邦生
- 医師：上田啓司
- 医師：高森薫生
- 医師：松本武士
- 医師：村上良慈
- 医師：酒井 透
- 医師：山脇かおり
- 医師：仁木啓介
- 医師：鈴木展子
- 医師：宮内大介
- 医師：本田荘介
- 医師：垣内理恵
- 医師：武藤岳夫
- 医師：早川達郎
- 医師：鬼頭伸輔
- 医師：伊賀淳一
- 医師：柳本寛子

- 医師：藤瀬 昇
- 医師：城野 匡
- 作業療法士：竹田真智子

- ・プログラム統括責任者
竹林 実

- ・連携施設における委員会組織
各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

熊本大学病院神経精神科：竹林 実
熊本大学病院神経精神科：朴 秀賢
国立病院機構熊本医療センター：橋本 聡
熊本県立こころの医療センター：西 良知
国立病院機構菊池病院：山下建昭、田中享治
弓削病院：相澤明憲
八代更生病院：宮本憲司朗、阿部恭久
くまもと心療病院：荒木邦生
くまもと青明病院：上田啓司
阿蘇やまなみ病院：高森薫生
益城病院：松永哲夫
希望ヶ丘病院：松本武士
吉田病院：村上良慈
酒井病院：酒井 透
向陽台病院：山脇かおり
ニキハーティ ホスピタル：仁木啓介
明生病院：鈴木展子
くまもと悠心病院：宮内大介
平成病院：本田荘介
荒尾こころの郷病院：垣内理恵
国立病院機構肥前精神医療センター：武藤岳夫
国立国際医療研究センター国府台病院：早川達郎
国立精神・神経医療研究センター病院：鬼頭伸輔
愛媛大学附属病院神経精神科：伊賀淳一
久留米大学医学部神経精神科：柳本寛子

2) 評価時期と評価方法

- ・3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。
- ・研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い、総合的に終了を判定する。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

基幹施設にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。指導医は、少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価を行い、「劣る」「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い、記録し、翌年度の研修に役立たせる。指導医は、学会あるいは機構の実施するコーチング、フィードバック技法、振り返りの促し等の技法を中心とした研修を受けることとする。

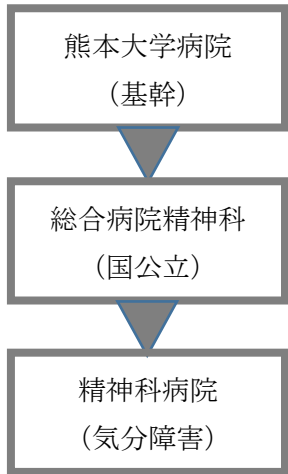
6. 全体の管理運営体制

研修施設の責任者は、専攻医のために適切な労働環境の整備に努め、専攻医の心身の健康維持に配慮する。

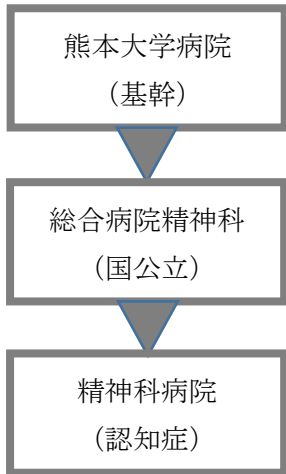
- 1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）
各施設の労務管理基準に準拠する。
- 2) 専攻医の心身の健康管理
各施設の健康管理基準に準拠する。
- 3) プログラムの改善・改良
プログラム管理委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
- 4) **FD**（Faculty Development：研修教育方法の改善や向上を目的とした組織的な取り組み）の計画・実施
年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。

別紙 1

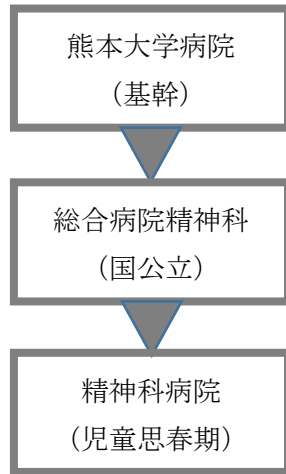
【気分障害強化コース】



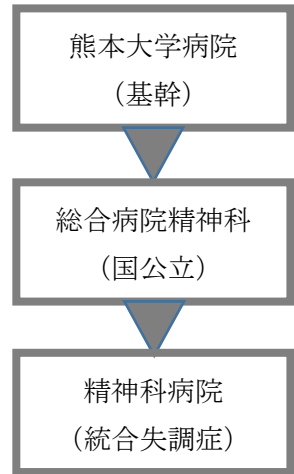
【認知症強化コース】



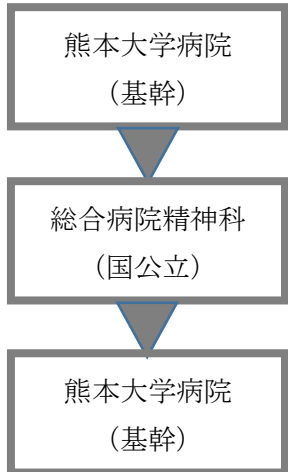
【児童思春期強化コース】



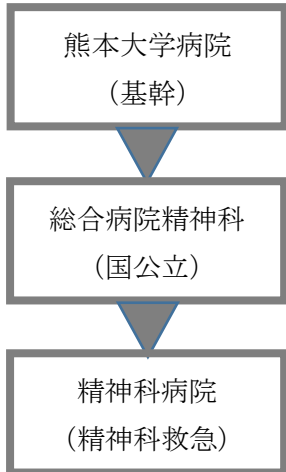
【統合失調症強化コース】



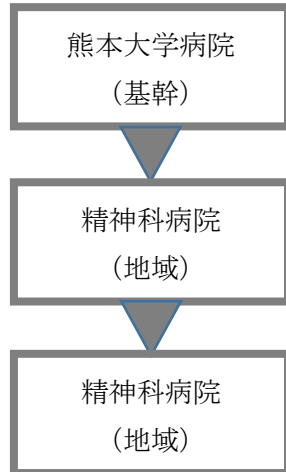
【総合病院精神科強化コース】



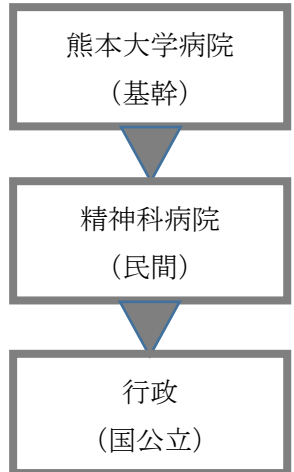
【精神科救急強化コース】



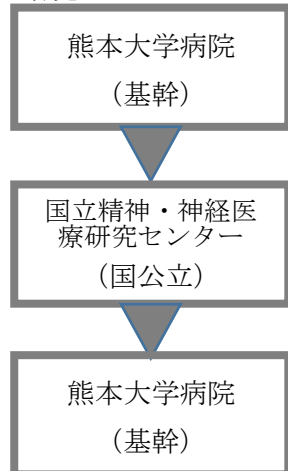
【地域医療強化コース】



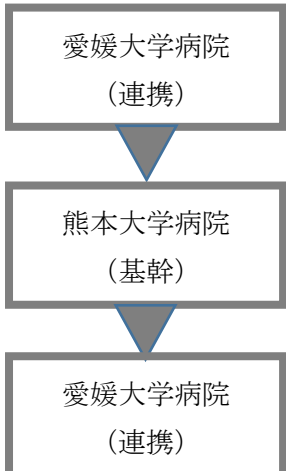
【子育て支援コース】



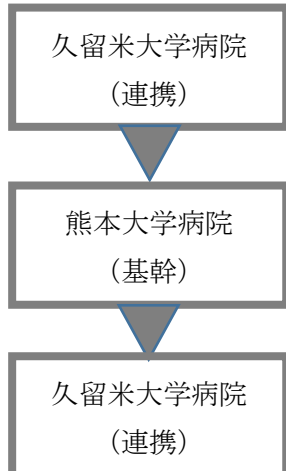
【国立精神・神経医療研究センターコース】



【愛媛大学交流コース】



【久留米大学交流コース】



#全てのコースにおいて、1施設に1年間在籍して研修を行う

別紙2【週間スケジュール】

1 熊本大学病院

	月	火	水	木	金
9:00～	病棟業務	ECT・病棟業務	教授外来陪席 病棟業務	病棟業務	ECT・病棟業務
13:00～	病棟業務・リエゾン	回診・カンファ レンス	病棟業務・リエ ゾン	病棟業務・リ エゾン	病棟業務・リ エゾン
夕方以降	精神科セミナー (月1回) 研究ミーティング (月1～2回) 認知症ミーティング (月2回)				
※40時間超過は自由参加 ※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。					

2 国立病院機構熊本医療センター精神科

	月	火	水	木	金
9:00～	外来予診	救急外来予診	病棟業務	救急外来予診	外来予診
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14:00～	病棟業務	病棟業務	病棟カンファラ ンス	病棟業務	病棟業務
夕方以降			自傷行為再企図 防止ミーティン グ		症例検討会
※40時間超過は自由参加					

3 熊本県立こころの医療センター

	月	火	水	木	金
午前(9:00～ 12:00)	病棟または外来 研修	病棟または外来 研修	病棟または外来 研修	病棟または外来 研修	病棟または外来 研修
午後(13:00～ 17:00)	病棟研修、講義、 症例カンファレ ンス	病棟研修	病棟研修、合同 カンファレンス	病棟研修、集団 療法	病棟研修、講義 診療部会(第1 週・第3週)

4 国立病院機構菊池病院

月	火	水	木	金
午前・午後：病棟業務 13:30：院長回診 14:00：治療評価会議	午前：外来予診 午後：病棟業務 16:00：デイケア診察	午前：外来予診 午後：病棟業務 15:00：医療観察法病棟カンファレンス	午前：院長外来陪席 午後：病棟業務 16:00：デイケア診察	午前・午後：病棟業務 12:30：TV回線クルーズ 17:00：症例検討会
※40時間超過は自由参加				

5 国立病院機構肥前精神医療センター

	月	火	水	木	金
午前	児童Gモーニングカンファレンス 8:30～9:00	外勤日	病棟業務	外来（予診+陪席） →入院	モーニングカンファレンス 8:30～9:00
	外来（再診）			院長回診 10:00～12:00	病棟診療
午後	病棟診療		脳波判読会 13:00～13:30	病棟診療	国立病院機構精神医学講義 12:40～13:25
	教育回診 15:00～17:30		医局会 13:30～14:00		
			新入院報告会 14:00～14:30		
	チームミーティング又は症例検討会 14:30～15:00				
夜間				当直 17:30～翌朝8:30	
※40時間超過は自由参加					

6 国立国際医療研究センター国府台病院

	月	火	水	木	金
時間帯を記入		レクリエーション(不定期)		レクリエーション(不定期)	
8:30-9:30	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス	児童精神科カンファレンス	病棟カンファレンス	病棟カンファレンス
9:30-11:30	初診	外来	児童精神科カンファレンス	外来	外来
13:00-14:00	病棟	外来	病棟レビュー	外来	外来

14:00-16:00	病棟	精神科医局会	特別病棟連絡会	外来	外来
16:00-	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
18:00-				研究会	
※40 時間超過は自由参加					

7 国立精神・神経医療研究センター病院

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察 部長回診（隔週）	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察 外来予診・部長診陪席 部長回診（隔週）	自己学習 または 保健所等訪問診療 または 病棟・外来診察	多職種による病棟カンファレンス 病棟・外来診察
午後	病棟・外来診察 気分障害、不安障害勉強会	抄読会(12:00～13:00) 病棟・外来診察 病棟ケースカンファレンス 精神科医局症例検討会（月1回）	病棟・外来診察（病棟集団 CBT） 統合失調症研究会（月1回）	自己学習 または 保健所等訪問診療 または 病棟・外来診察	病棟・外来診察 光トポ判読会 統計セミナー（月1回）
17時以降	てんかんカンファレンス (精神・小児神経・脳外科合同)	総合医局症例検討会（2カ月に1回） 精神医学セミナー（月1回） 臨床病理検討会（月1回） ブレインカッティング（月1回）		てんかんカンファレンス (精神・小児神経・脳外科合同)	

8 愛媛大学附属病院

	月	火	水	木	金
午前	病棟診察 グループカンファ	病棟業務	連携病院勤務	外来予診 リエゾン	病棟診察 精神医学セミナー
午後	教授回診	作業療法、 病棟レクリエーション	連携病院勤務	病棟業務	病棟診察 医局会 論文輪読会
夕方	薬剤勉強会	病棟業務			行動制限最小化委

					員会
夜		連携病院勤務			

9 久留米大学医学部神経精神医学講座

	月	火	水	木	金	土
午前	8時30分 ～12時30分 病棟業務	8時00分 ～9時00分 症例カンファ ランス 病棟業務 11時00分～ 12時00分 全体スタッ フミーティ ング	8時30分 ～12時30分 病棟業務	8時30分 ～12時30分 病棟業務	8時00分 ～9時00分 入院カンファ ランス	
午後	13時30分～ 17時00分 病棟業務 17時00分～ 18時00分 病棟カンファ ランス	13時30分～ 17時30分 病棟業務 (心理教育 ミーティ ングな ど)	13時30分～ 17時30分 病棟業務 (心理教育 ミーティ ングな ど)	13時30～ 17時30分 病棟業務	13時30分～ 17時30分 病棟業務	

10 弓削病院

	月	火	水	木	金
8:30～ 8:50	医局カンファ	院外研修	医局カンファ	医局カンファ	医局カンファ
9:00～	病棟・外来		病棟・外来	病棟・外来	病棟・外来
13:00～ 13:30	症例検討会		医局会	月1回 行動制限 最小化委員会	

13:30～ 17:00	病棟・外来		病棟	病棟・外来	病棟・外来
-----------------	-------	--	----	-------	-------

11 くまもと心療病院

	月	火	水	木	金
午前	病棟実習 または 外来予診	病棟実習 または 外来予診	病棟実習 または 外来予診	認知症せん外来 予診・陪席	病棟実習 または 外来予診
午後	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導	病棟実習 および 研修指導
	アルコールプログラム 医局会 治験検討会 抄読会		NST 回診		

12 くまもと青明病院

	月	火	水	木	金
午前	ECT 実習 外来陪席 予診	病棟回診	ECT 実習 病棟回診	外来陪席 予診	ECT 実習 訪問看護 デイケア
午後	医局連絡会 外来陪席 予診、病棟 入院時カンファレンス	外来陪席 予診、病棟	病棟回診	外来陪席 予診、病棟	外来陪席 予診、病棟 脳波判読実習

13 阿蘇やまなみ病院

	午前	午後
月曜	外来、病棟診療	病棟診療
火曜	施設往診	病棟診療
水曜	外来、職員会議	薬剤説明会、医局会議、症例検討
木曜	外来（もの忘れ外来）	外来（もの忘れ外来）
金曜	外来、病棟診療	病棟診療

14 益城病院

	月	火	水	木	金
9:00～	外来 ^{註1)} (予診・陪席)	外来 ^{註1)} (予診・陪席)	医局カンファレ ンス ^{註2)}	外来 ^{註1)} (予診・陪席)	外来 ^{註1)} (予診・陪席)
13:00～	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}	病棟 ^{註3)}
18:00～			院外カンファレ ンス ^{註4)}		院外カンファレ ンス ^{註4)}

※40 時間超過は自由参加

註1) 当院の外来は、一般外来（うつ病・神経症・統合失調症など）の他に、専門外来としては、認知症・アルコール依存症・児童思春期・てんかん、などがあります。

註2) 医局カンファの内容としては、通常医局会（連絡・情報交換など）に加えて、医局会研修手帳の内容に沿った系統的な講義、DVD教材を用いた検討会、症例検討会など。

註3) 午後は、基本的に病棟勤務ですが、時に院外の診療に出かけることもあります。たとえば、僻地（蘇陽病院、山都町井無田地区・北部地区、湯島など）、老人施設（特別養護老人ホーム花へんろ、養護老人ホーム花へんろ、グループホームふるさと）、知的障害者施設（熊東園）などです。また機会があれば、措置鑑定、司法精神鑑定（検察庁）、医療観察法審判（裁判所）などに陪席することもあります。

註4) ときに院外カンファレンスに参加することもあります。開催場所は、他の病院、行政機関（県、市町村）、市街のホテルなど。水曜日と金曜日に多いため、上記の表においては当該曜日の欄に記入していますが、他の曜日に開かれることもあります。頻度は月に数回程度で、院外の情報に触れたり懇親を深めたりする場になります。

15 希望ヶ丘病院

	月	火	水	木	金
8:30～	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ
	専門外来予診 (児童思春期全般) 病棟業務	病棟業務	院長回診 ペアレント トレーニング	指導医陪席 病棟業務	児童思春期 デイケア
13:30～	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ	病棟カンファ
	専門外来予診	病棟業務	集団認知	病棟ミーティング	病棟業務

	(ネット依存)		行動療法	グ	指導医専門相談
17:00～	児童思春期 症例検討会	教育・福祉と の連携会議			
※40 時間超過は自由参加					

16 吉田病院

	月	火	水	木	金
9:00～	認知症専門外来 予診、 陪席、診察	一般外来予診、 陪席、診察	認知症外来予 診、陪席、診察	一般外来予診、 陪席、診察	一般外来予診、 陪席、診察
	病棟業務	病棟業務、訪問 診療	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:00～	病棟業務 適時カンファレ ンス・委員会	病棟業務 訪問診療 適時カンファレ ンス・委員会	病棟業務 適時カンファレ ンス・委員会	病棟業務 適時カンファレ ンス・委員会	病棟業務 医局会 適時カンファレ ンス・委員会
夕方以降	適時研修等	適時研修等	適時研修等	適時研修等	適時研修等
※40 時間超過は自由参加					

17 酒井病院

	月	火	水	木	金
9:00 12:30	病棟回診	外来陪席 新患予診	病棟業務	病棟業務	外来陪席 新患予診
昼 休 み					
13:30 17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
夕方以降		勉強会	症例検討会		
※40 時間超過は自由参加					

18 八代更生病院

	月	火	水	木	金
9:00～	・ 合同連絡会議 ・ 外来予約診療 (物忘れ外来)	・ 合同連絡会議 ・ 外来予約診療 (うつ病外来)	・ 合同連絡会議 ・ 外来予約診療 (思春期外来)	・ 合同連絡会議 ・ 外来予約診療	・ 合同連絡会議 ・ 外来予約診療 (アルコール外来)
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
14:00～	・ 入院患者合同	・ 気分障害勉強	・ 往診 (※)	・ 入院患者合同	・ 医局会

	治療ミーティング ・認知症勉強会	会	・発達障害勉強会	治療ミーティング ・あさぎり町調査(月1回) ・思春期SST(月1回)	・薬物治療勉強会 ・院内断酒会(2週1回) ・医局勉強会(月1回)
夕方以降	院外研修会	院外研修会	院外研修会	院外研修会	院外研修会
※40時間超過は自由参加					

19 向陽台病院

	月	火	水	木	金
8:45～	全体ミーティング				
9:00～	9:00～ 外来予診 ECT 11:00～12:00 精神科一般病棟カンファレンス (重度かつ慢性)	病棟業務 10:00～11:30 児童思春期 病棟カンファレンス	病棟業務 ECT	病棟業務 10:00～11:30 救急病棟カンファレンス	9:00～ 外来予診 ECT
13:00～	病棟業務 16:00～ 医局会 16:45～17:30 (隔週)勉強会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務 14:00～16:00(月1回) 精神科一般病棟カンファレンス

20 ニキハーティ ホスピタル

	月	火	水	木	金
8:30 ～8:45	全体ミーティング	全体ミーティング	全体ミーティング	全体ミーティング	全体ミーティング
9:00 ～12:00	外来 病棟 デイケア	病棟	外来 病棟	外来 ・特殊 治療 心法 理陪 席	病棟 カンファレンス

13:00 ～17:30	外 来 病 棟	病 棟 ・ 特 殊 心 理 療 法 陪 席	外 来 病 棟	外 来 ・ 特 殊 心 理 療 法 陪 席	病 棟 局 会 症 例 検 討
-----------------	------------	--------------------------------	------------	--------------------------------	-----------------------

21 明生病院

	月	火	水	木	金
9:00～	・合同カンファレンス ・外来(診療・陪 席)	・合同カンファレンス ・外来(診療・陪 席)	・症例検討会 (8:30～) ・合同カンファレンス ・外来(診療・陪 席)	・合同カンファレンス ・外来(診療・陪 席)	・合同カンファレンス ・外来(診療・陪 席)
	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
13:30 ～	・研修指導 ・デイケア研修 ※2 ・訪問看護研修 ※2	・研修指導 ・集団精神療法 (ARP)	・研修指導 ・院内断酒会 (月2回) ・集団精神療法 (ARP)	・研修指導 ・集団精神療法 (心理教育)	・研修指導 ・家族教室 (月1回)
17:00 以降に不定期に研修会(自由参加) ※1 希望があれば参加可能 ※2 措置鑑定、司法精神鑑定、医療観察法審判などに陪席することもあります。					

22 くまもと悠心病院

	月	火	水	木	金
午前	認知症外来 予診・陪席	往診診療同行	一般外来 予診・陪席	病棟業務 外来、デイケア	病棟業務 外来、デイケア 診察
午後	病棟業務 外来診療ミーテ ィング	病棟業務	病棟業務 ケースカンファ レンス	退院支援委員会 (新入院、医療保 護入院、長期入院 者等)	病棟業務
夕～		院内勉強会			

23 平成病院

	月	火	水	木	金	土
午 前	外来業務 (予診・陪席)	外来業務 (予診・陪席)	外来業務 認知症疾患センター	自己 学習	外来業務 リエゾン活動	全病棟回診
午 後	病棟業務 病棟作業療法	病棟業務 デイケア業務	外来業務 認知症疾患センター	自己 学習	病棟業務 外来作業療法	

			病棟業務			
	院内講習会 各委員会	症例検討会	診断検討会		院外講演会	カンファレンス

24 荒尾こころの郷病院

	月	火	水	木	金
午前	朝ミーティング 病棟診療	朝ミーティング 外来診療	朝ミーティング 病棟診療	朝ミーティング 外来診療	朝ミーティング 病棟診療
午後	病棟診療	病棟診療 入退院カンファ ランス	デイケア	病棟診療	病棟診療

- ※ 認知症対策委員会（第3火曜日）
- ※ 認知症初期集中支援チーム員会議（第3火曜日）
- ※ 医療安全対策委員会（第4火曜日）
- ※ 薬事委員会（第4火曜日）
- ※ 過誤返戻報告（第4火曜日）
- ※ 行動制限最小化委員会（第2木曜日）
- ※ グループホーム委員会（第4木曜日）

別紙3【年間スケジュール】

1 熊本大学病院

4月	新入医局員オリエンテーション（約2週間）
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会 サイコグリア研究会（任意）
6月	日本精神神経学会総会参加 ECT講習会参加 日本生物学的精神医学会（任意） 日本老年精神医学会（任意）
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 日本うつ病学会（任意）
9月	日本神経精神薬理学会（任意） 日本神経心理学会（任意） IPA International Congress（任意）
10月	研修中間報告書提出 Society for Neuroscience（アメリカ神経科学学会）（任意） 日本認知症学会（任意） 日本児童青年期精神医学会（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 日本総合病院精神医学会（任意） 躁うつ病の薬理・生化学的研究懇話会（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	日本社会精神医学会（任意） 日本正常圧水頭症学会（任意） 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	症例検討会（毎月1回、月曜日） 英語論文抄読会（ジャーナルクラブ）（毎週、月曜日） 精神科セミナー（毎月1-2回・月あるいは金曜18:00～） リサーチミーティング（毎月第1月曜18:00～） 認知症疾患医療センター症例検討会（毎月第2土曜15:00～）

2 国立病院機構熊本医療センター精神科

4月	新入医局員オリエンテーション（約1週間） 新任医師宿泊研修会
5月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表

6月	日本精神神経学会総会参加（任意） 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 救急症例検討会・演題発表
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表
9月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
10月	熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 日本精神科救急学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表 日本総合病院精神医学会参加（任意）
1月	熊本医療センター医学会・演題発表
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表 熊本脳神経疾患懇話会・演題発表
3月	

3 熊本県立こころの医療センター

4月	新任者オリエンテーション
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 認知症ケア学会参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 日本うつ病学会参加（任意）
9月	日本神経心理学会参加（任意） IPA International Congress 参加（任意）
10月	研修中間報告書提出 日本認知症学会参加（任意） Asian Society Against Dementia 参加（任意） 日本児童青年期精神医学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 日本高次脳機能障害学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	日本社会精神医学会（任意） 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成

	研修プログラム評価報告書の作成
その他	パーソナリティ障害・トラウマ関連問題臨床検討会（隔月1回・月曜18:00～）

4 国立病院機構菊池病院

4月	新入医局員オリエンテーション（5日間）
5月	医療安全対策研修 院内感染防止研修
6月	日本精神神経学会総会参加 日本老年精神医学会参加（任意） 日本司法精神医学会参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 国立病院機構レジデントフォーラム参加
9月	菊池病院・大悟病院認知症研修会参加
10月	研修中間報告書提出 日本認知症学会参加（任意） 国立病院総合医学会参加・演題発表
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 認知症セミナーin きくち参加
12月	認知症セミナーin きくち参加 医療安全対策研修
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	認知症疾患医療センター症例検討会（毎月第2土曜15:00～）

5 国立病院機構肥前精神医療センター

4月	新入医局員・研修医オリエンテーション CRAFT（依存症家族支援）研修、「お母さんの学習室」第一期開催
5月	
6月	CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修 BLS講習会 日本精神神経学会学術総会参加、日本司法精神医学会参加 日本老年精神医学会参加、医療安全研修会
7月	精神看護研修 バリーフインターベンション&HAPPYプログラム研修会 国立病院機構精神科レジデントフォーラム参加

	佐賀県精神科集談会参加 精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
8月	
9月	佐賀大学医学部アーリーエクスポージャー 「お母さんの学習室」第二期開催 医療安全研修会
10月	佐賀県精神科集談会参加 肥前精神医学セミナー CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修 CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修（フォローアップコース） BLS 講習会 日本児童青年精神医学会参加 アルコール・薬物依存関連学会参加 院内感染対策研修会、虐待防止研修会
11月	認知症ケア研修、九州精神神経学会参加 国立病院総合医学会参加、日本臨床神経生理学会参加
12月	アルコール・薬物関連問題研修、佐賀県精神科集談会参加、院内感染対策研修会
1月	全国児童青年精神科医療施設協議会参加
2月	司法精神医学研修、CVPPP（包括的暴力防止プログラム）研修 認知症かかりつけ医研修会 BLS 講習会、医療倫理研修 佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会 精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会 メンタルヘルス研修、向精神薬フォーラム in SAGA 参加
3月	佐賀県精神科集談会参加、九州地区重症心身障害研究会参加

6 国立国際医療研究センター国府台病院

4月	東京児童精神医学研究会、国府台児童精神医学研究会
5月	
6月	日本精神神経学会、病棟・鋸山遠足
7月	欧州児童青年精神医学会、病棟キャンプ
8月	国際児童青年精神医学会
9月	国府台児童精神医学研究会
10月	児童精神薬物療法研究会
11月	日本児童青年精神医学会
12月	病棟クリスマス会

1月	千葉県児童青年精神医学研究会
2月	厚生労働省こころの健康づくり事業思春期精神保健研修
3月	集団精神療法学会発表、病棟お別れ会

7 国立精神・神経医療研究センター病院

4月	オリエンテーション 1年目専攻医研修開始 2・3年目専攻医前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 医療観察法関連職種研修参加 司法精神医学会参加（任意）
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	精神医学サマーセミナー 日本うつ病学会学術集会参加（任意）
9月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出 医療観察法指定入院医療機関 机上研修 日本生物学的精神医学会年会（任意） 東京精神医学会学術集会参加（任意）
10月	日本てんかん学会学術総会参加（任意） 日本臨床精神神経薬理学会（任意）
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意） 日本臨床神経学会学術総会参加（任意）
12月	医療観察法上級研修会参加
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成 専攻医まとめの会 院内研究発表会 東京精神医学会学術集会参加（任意） 日本臨床精神神経薬理学会（任意）

8 愛媛大学医学部附属病院精神科

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
----	---

5月	教室研究会参加
6月	愛媛県精神神経学会参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本神経精神薬理学会参加（任意）
8月	日本うつ病学会参加（任意）
9月	四国4大学研修会参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR1・2・3研修中間報告書提出 日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	中国四国精神神経学会参加 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意）
12月	研修プログラム管理委員会開催
1月	
2月	
3月	SR1・2・3研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成

9 久留米大学医学部神経精神医学講座

4月	オリエンテーション
5月	福岡県精神科集談会 参加
6月	日本精神神経学会
7月	
8月	夏季セミナー
9月	福岡県精神科集談会 参加
10月	ポートフォリオ面談での形成的評価
11月	九州精神神経学会
12月	
1月	福岡県精神科集談会 参加
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

10 弓削病院

4月	派遣医員オリエンテーション(約2週間) 病棟業務、外来業務、デイケア・デイナイトケア業務のオリエンテーションは必須です。往診や訪問看護への付き添い、デイケア・デイナイトケアでの院外研修への参加は希望に応じて可能です(任意)。勤務時間
----	---

	内での参加になります。
5月	各種学会への参加(原則任意) 精神神経学会などへの参加は年1回までは旅費などの援助があります。
6月	各種学会への参加(原則任意)
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表
8月	各種学会への参加(原則任意)
9月	各種学会への参加(原則任意) CAT(小児思春期センター)公開ケースカンファレンス
10月	各種学会への参加(原則任意)
11月	各種学会への参加(原則任意)
12月	各種学会への参加(原則任意)
1月	各種学会への参加(原則任意)
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表 CAT(小児思春期センター)公開ケースカンファレンス
3月	各種学会への参加(原則任意) 院内講演会(熊本大学から講師招聘)
その他	熊本精神神経学会での演題発表は7月又は2月のいずれかに、少なくとも1回は発表してもらいます。 学会への参加実績は以下の通り(年間平均)。 5~6月 精神神経学会 2~3名 6月 老年期精神医学会 1~2名 8~10月 日本精神科診断学会 1~2名 10月 日本児童青年精神学会 2名 12月 認知症学会 1~2名

11 くまもと心療病院

4月	
5月	日本司法精神医学会(任意)
6月	日本精神神経学会総会 日本老年精神医学会(任意)
7月	熊本精神神経学会
8月	
9月	
10月	日本精神科救急学会(任意)
11月	
12月	
1月	

2月	熊本精神神経学会
3月	

12 くまもと青明病院

4月	新入職員研修会（2日間）
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6月	日本精神神経学会総会（任意） 日本老年精神医学会（任意） 認知症ケア学会（任意）
7月	熊本精神神経学会（任意） 日本うつ病学会参加（任意）
8月	
9月	日本神経心理学会参加（任意）
10月	研修中間報告書提出 新入職員フォローアップ研修会 日本認知症学会参加（任意） 日本児童青年期精神医学会参加（任意）
11月	九州精神神経学会 日本高次脳機能障害学会参加（任意） くまもと青明病院シンポジウム
12月	
1月	
2月	くまもと青明病院 地域シンポジウム 熊本精神神経学会（任意）
3月	日本社会精神医学会（任意） 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	医局カンファレンス・症例検討会（月1回） 認知症疾患医療センター事例検討会（年3回） 認知症疾患医療センター（熊大）症例検討会（月1回）

13 阿蘇やまなみ病院

4月	オリエンテーション 熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会 参加 日本老年精神医学会 参加（任意）

	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会 研修施設実績報告書 提出
7月	熊本精神神経学会 参加
8月	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
9月	熊本県認知症疾患医療センター 地域版事例検討会
10月	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
11月	九州精神神経学会 参加
12月	熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会 熊本県認知症疾患医療センター 地域版事例検討会
1月	
2月	熊本精神神経学会 参加 熊本県認知症疾患医療センター 事例検討会
3月	熊本県認知症疾患医療センター 地域版事例検討会

14 益城病院

4月	新入医局員オリエンテーション（約2週間） 熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会
5月	
6月	日本精神神経学会総会 熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会 上益城地区認知症疾患センター研修会
7月	熊本精神神経学会
8月	熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会
9月	
10月	研修中間報告書提出 益城病院院内学会 熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会 上益城地区認知症疾患センター研修会
11月	九州精神神経学会
12月	熊本アルコール関連問題学会 熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会
1月	
2月	熊本精神神経学会 熊本県認知症疾患センター基幹施設（熊大病院）研修会 上益城地区認知症疾患センター研修会
3月	専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成

15 希望ヶ丘病院

4月	新入医局員オリエンテーション(約1週間) 児童思春期疾患院内講演 精神保健福祉法および行動制限最小化に伴う研修会
5月	発達障害院内講演
6月	日本精神神経学会参加 日本老年精神医学会参加(任意) 統合失調症院内講演
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表 小児科連携研修:小児リエゾン(熊本県こども総合療育センター)
8月	こころの健康アドバイザー事業全体研修会 うつ病についての院内講演
9月	日本神経心理学会参加(任意)
10月	研修中間報告書提出 日本児童青年期精神医学会参加(任意) 小児神経疾患についての院内講演
11月	九州精神神経学会参加(任意)
12月	研修プログラム管理委員会開催 認知症についての院内公講演
1月	第1回熊本県児童思春期病棟研修会
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表 九州アルコール学会(任意)
3月	専攻医:前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成 院内研究発表会
その他	上益城郡こころの健康アドバイザー事業参加(年3回) 子どもの司法と精神保健・福祉を考える会 in 熊本参加(年2回) 認知症疾患医療センター研修会(年3回) 御船町認知症多職種事例検討会参加(年3回)

16 吉田病院

4月	新入医局員(含新入社員研修)オリエンテーション、精神保健福祉法研修
5月	関連施設見学・研修
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	熊本精神神経学会参加・演題発表
9月	院内研修講義担当
10月	研修中間報告書提出

11月	九州精神神経学会参加・演題発表
12月	研修プログラム管理委員会開催
2月	熊本精神神経学会参加・演題発表
3月	専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	熊本大学病院神経精神科各研修参加（認知症疾患医療センター症例 検討会など） 医療安全、行動制限最小化、感染等に関する院内研修 精神科関係各学会参加・演題発表

17 酒井病院

4月	オリエンテーション 文化祭（院内）
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 くませいフェスタ参加（任意）
7月	熊本精神神経学会参加
8月	夏祭り（院内）
9月	体育祭（院内）
10月	研修中間報告書提出
11月	九州精神医学会参加
12月	演芸際（院内）
1月	
2月	熊本精神神経学会参加
3月	研修報告書提出および次年度の研修計画作成 天草地域医療連携意見交換会

18 八代更生病院

4月	熊大新入医局員オリエンテーション参加
5月	院内研修会（行動制限最小化・医療安全・感染対策）
6月	日本精神神経学会 日本老年精神医学会
7月	熊大精神神経学会 日本うつ病学会
9月	日本神経心理学会 自殺予防学会
10月	研修医中間報告書提出

	日本児童青年期精神医学会
11月	九州精神神経学会 日本臨床精神神経薬理学会
12月	研修医プログラム管理委員会
2月	熊大精神神経学会参加
3月	専攻医：前年研修報告書の提出、および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	認知症疾患医療センター拠点型症例検討会

19 向陽台病院

4月	新人医局員オリエンテーション ＜精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会＞
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加 小児精神神経学会参加(任意)
7月	熊本精神神経学会参加
8月	
9月	ECT講習会
10月	研修中間報告書提出 日本児童青年期精神医学会(任意)
11月	九州精神神経学会参加・演題発表 小児精神神経学会参加(任意)
12月	(研修プログラム管理委員会開催)
1月	
2月	熊本精神神経学会参加
3月	日本社会精神医学会(任意) 専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 (研修プログラム評価報告書の作成)
その他	熊本大学精神科セミナー参加 勉強会(隔週) 児童症例検討会(隔週) 外部講師による講演会

20 ニキハーティーホスピタル

4月	新入職員オリエンテーション
5月	日本臨床催眠学会研修会
6月	日本精神神経学会

	日本EMDR学会
7月	熊本精神神経学会
8月	被災児童招待キャンプ
9月	
10月	研修医中間報告書提出 院内秋祭り
11月	九州精神神経学会
12月	研修医プログラム管理委員会
1月	
2月	熊本精神神経学会
3月	研修報告書の提出、および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成

21 明生病院

4月	オリエンテーション
5月	熊本市北区医療・介護・福祉ネットワーク研究会（任意）
6月	日本東洋医学会（任意） 日本精神神経学会（任意）
7月	SST普及協会（任意）
8月	院内研修会発表
9月	熊本市北区医療・介護・福祉ネットワーク研究会（任意） 日本中医学会学術総会（任意）
10月	日本精神医学会（任意）
11月	11月日本リハビリテーション医学会（任意） 日本精神神経薬理学会（任意）、日本精神医学史学会（任意）
12月	熊本市北区医療・介護・福祉ネットワーク研究会（任意） 熊本アルコール関連問題学会（任意）
1月	
2月	熊本市北区医療・介護・福祉ネットワーク研究会（任意）
3月	医療観察法研修会（任意）
その他	上記以外の各種学会・研修会等も任意で参加可能。

22 くまもと悠心病院

4月	新入職員研修会
5月	精神保健福祉法及び行動制限最小化に伴う研修会
6月	日本精神神経学会（任意） 日本老年精神医学会（任意）

	くませいフェスタ（任意）
7月	熊本精神神経学会（任意） 医療安全、院内感染に関する院内研修
8月	
9月	
10月	研修中間報告書提出 日本児童青年期精神医学会参加（任意） 日本精神科救急学会参加（任意） 九州精神神経学会（任意） 秋祭り（周辺地域や施設との交流事業）
11月	
12月	
1月	
2月	熊本精神神経学会（任意）
3月	専攻医：前年研修報告書の提出および次年度の研修計画作成 研修プログラム評価報告書の作成
その他	症例検討会（月1回） 認知症疾患医療センター事例検討会（基幹・地域）

23 平成病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会（原則任意） 日本老年精神医学会（原則任意） 熊本県認知症医療疾患センター 事例検討会 熊本県認知症医療疾患センター 地域版事例検討会
7月	精神科協会・一般、学術講演会 熊本精神神経学会
8月	熊本県認知症医療疾患センター 事例検討会
9月	精神科協会・一般、学術講演会 熊本県認知症医療疾患センター 地域版事例検討会
10月	九州精神神経学会（原則任意）
11月	精神科協会・一般、学術講演会 日本総合病院精神医学会（原則任意）
12月	熊本県認知症医療疾患センター 事例検討会
1月	精神科協会・一般、学術講演会 熊本県認知症医療疾患センター 地域版事例検討会

2月	熊本精神神経学会 熊本県認知症医療疾患センター 事例検討会
3月	精神科協会・一般、学術講演会

24 荒尾こころの郷病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経精神学会学術総会 認知症疾患医療センター事例検討会
7月	熊本精神神経学会
8月	認知症疾患医療センター事例検討会
9月	
10月	
11月	九州精神神経学会 認知症疾患医療センター事例検討会
12月	
1月	
2月	認知症疾患医療センター事例検討会 熊本精神神経学会 院内研究発表会
3月	